

顕彰状

廉載鎬^{ヨムジホ}氏は、1955年1月4日に大韓民国ソウル特別市に生まれた。1978年に高麗大学校政経大学を卒業後、高麗大学校大学院に進学し行政学修士号を取得。その後アメリカ合衆国に留学し、1989年にスタンフォード大学において政治学博士の学位を取得した。

1990年より高麗大学校に教授として嘱任されて以降、氏は高麗大学校の発展のために目覚ましい活躍を見せている。2002年から2004年まで高麗大学校政府研究所所長、2003年から2005年まで高麗大学校理事（企画・予算担当）、2003年から2006年まで高麗大学校国際研究所所長、2004年から2005年まで高麗大学校大学評価準備委員会委員長、2012年から2014年まで高麗大学校副総長（行政・渉外担当）を歴任し、同校の教育改革に多大な貢献を果たした。2015年3月の第19代高麗大学校総長就任後も、高麗大学校は廉氏の強力なリーダーシップのもと世界的プレゼンスを向上させ続けている。

学外の活動においても、韓国の行政、政策学分野における先導的学会である韓国政策学会で2007年に会長を務め、韓国における日本研究を代表する学会として知られる韓国現代日本学会でも2008年から会長を務めた。加えて、韓国高等教育財団理事長、基礎科学研究院諮問委員、韓国研究財団諮問委員、ソウル研究院理事を現在も兼務しており、韓国の教育、研究界における廉氏の存在感は突出している。

廉氏の活躍はアカデミズムの世界を越えて公的分野にも及ぶ。2011年に教育科学技術部教育機関評価委員会委員長、2014年から2015年まで企画財政部公共機関評価委員会委員長、2012年から2015年まで郵政事業運営委員会委員長等の要職を歴任するにとどまらず、韓国科学技術企画評価院や外交通商部政策諮問委員会、中央選挙管理委員会を含む数々の機関において諮問委員を務めてきた。現在も外交通商部政策諮問委員会委員長及び国会予算政策諮問委員会委員の任にある。

このように廉氏は韓国国内で数多くの要職に就き、その職責を果たす一方で、国際的な評価も高い。豪州グリフィス大学、英国ブライトン大学、中国人民大学や北京大学といった国外の多数の大学で客員教授や客員研究員として研究活動を展開してきた他、本学も加盟する世界的な大学コンソーシアムである Universitas21 及び環太平洋大学協会 (APRU) の現任理事としても卓越した運営手腕を発揮している。

1973年の協定締結以来絶えることなく培われてきた高麗大学校と早稲田大学の交流関係は、廉氏の高麗大学校総長の就任により、一層の発展、深化を遂げた。とりわけ、日中韓キャンパスアジア・プログラムの開始や日韓ミレニアムフォーラムの継続・拡充により、学生交流が従前にも増して活発化したことは特筆すべきである。加えて、本学の Universitas21 への再加盟はその理事を務める廉氏の力添えの賜物であり、また廉氏が主導して設立し本学も創立メンバーとして参画している East Asia - Nordic / Benelux University Consortium (ENUC) は、本学の北欧大学との交流強化と国際共同研究の促進に貢献している。

「アジアのリーディングユニバーシティ」として、世界へ貢献する大学を目指す本学にとり高麗大学校は最重要パートナーであり、今後も更なる交流活動の進展が期待される中で、両校の交流関係を一段と揺るぎないものとし、本学の国際化にも大きな寄与が認められる高麗大学校総長・廉氏に本学名誉博士の称号を贈呈することは、誠に時宜に適っているというべきである。

ここに早稲田大学は、廉載鎬氏に名誉博士 (Honorary Doctor of Laws) の学位を贈ることとした。

学問の府に栄えあれ！

大学が名誉を与えんとする者を讃えよ！

(*Vivat universitas scientiarum! Laudate quem universitas honorabit!*)

2018年9月15日

早稲田大学